

# 宮崎広域都市計画道路 新町停車場線(新町橋)の整備について

宮崎市 都市整備部 市街地整備課

## 1. はじめに

令和6年4月27日(土)、新町停車場線(新町橋)の開通を祝い、開通式典が執り行われました。地域を代表する方々や建設に携わった関係者の方々など、約100名の皆様にご出席いただき、橋の完成を祝いました。

式典では、橋名板への筆耕を行った地域の子どもたちに、感謝状が手渡されました。

また、式典後は、地域住民の方と共に、親子三代による渡り初めも行いました。

本稿では、新町停車場線(新町橋)整備事業について、ご紹介いたします。



写真1 テープカット



写真2 市長と筆耕者記念撮影



写真3 渡り初め①



写真4 渡り初め②

## 2. 路線の概要

新町停車場線は、宮崎県の中心部、宮崎市の南西部に位置する清武町の主要幹線道路であり、JR清武駅と宮崎学園都市を結んでいます。

この道路は、JR清武駅へのアクセス道路や周辺学校の通学路として利用されていますが、幅員が6.0mと狭く、大型車同士の離合ができないことや、歩道が未整備であり、歩行者や自転車の安全な通行が確保されていませんでした。

さらに既存の橋梁部は架橋から50年以上が経過し老朽化が進んでおり、早期の改修が求められていました。今回の事業では、歩行者・自転車通行者の安全性及び通行車両の利便性・快適性の向上を目的としました。

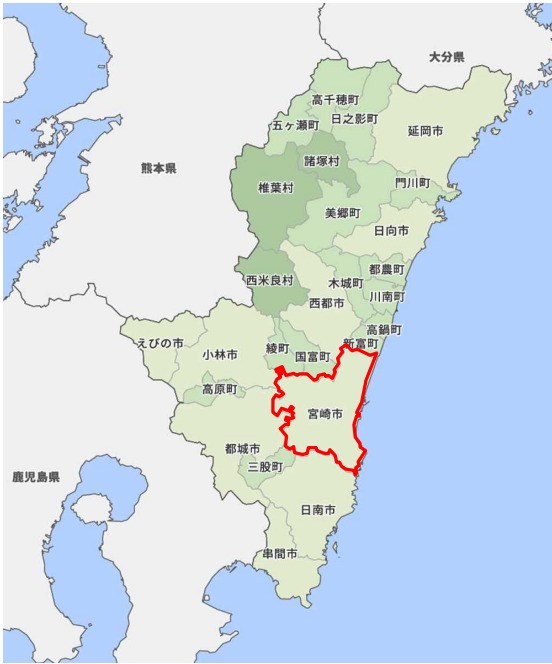


図1 位置図（宮崎県全景）



写真5 旧橋写真

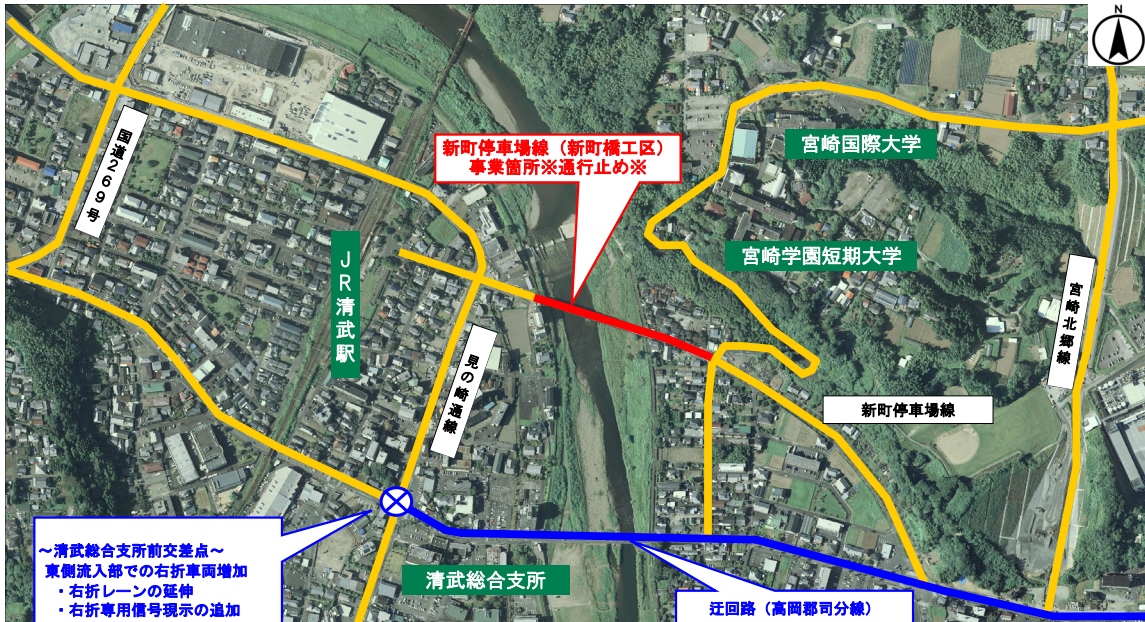


図2 位置図（周辺位置図）

### 3. 整備における課題と取り組み

本事業における道路整備の大きなポイントは、全面通行止めで橋梁架け替え工事を行ったことです。交通量のある道路の場合、通行止めになると周辺道路への影響が大きいことから、仮橋を設置するのが一般的ですが、関係機関との協議や地元との合意形成を図り、仮橋を設置せずに施工を行いました。

特に、通行止め期間の影響を最小限に抑えるため、具体的には、以下の点に注力しました。

#### ■ 代替路線の確保と交通誘導

通行止め期間中は周辺道路の交通量が大幅に増加することが見込まれたため、迂回路の整備や交通誘導に注力しました。

まず、周辺の交通量調査結果に基づいて、交通シミュレーションを実施し、新町橋の通行止めによる

影響を予測した結果、特に迂回路交差点における右折車両増加による渋滞が懸念されました。

そのようなことから、実際に新町橋を通行止めにする社会実験により、周辺道路への影響を確認したところ、迂回路交差点を中心に渋滞が発生し、右折車両の滞留が主な原因であることが確認されました。



写真6 社会実験状況

これらの結果を踏まえ、県道管理者及び交通管理者と協議を行い、右折レーンの延伸工事や右折専用信号現示を追加するなど、円滑な交通の流れを確保するための対策を講じました。右折レーンの延伸工事では、用地買収は行わず、路肩及び歩道幅員の縮小により付加車線の幅員を確保したことにより整備コストを大幅に縮減できました。

また、新聞やラジオ、SNS など様々な媒体を活用し、通行止めに関する情報を発信することで、道路利用者への周知徹底を図りました。

これらの対策により、通行止め期間における、周辺道路のピーク時の交通渋滞が緩和されました。

## ■ 施工方法の工夫・工程調整

通行止め期間を最小限に抑えるため、橋梁工事の受注者と協議を重ね、工程の最適化を図りました。特に、中央径間の主桁架設工程においては、施工計画の見直しを行い、門型クレーンを全橋脚に配置し、クレーンの移動作業を省き、大幅に工期短縮を実現しました。

また、限られた施工スペースの中で複数の工事が並行して進められるという状況において、毎週二回の工程会議を定例化し、各工事担当者と発注者間で緻密な連携を図るように調整しました。これにより、工程の遅延や手戻りを最小限に抑え、スムーズな施工を可能にしました。



写真7 架設状況



写真8 完成写真



写真9 完成写真

## 4. 工事の成果

本事業は、交通状況の改善、歩行者・自転車の安全確保、地域住民との連携強化など、多岐にわたる成果を上げることができました。

- 交通状況の改善：通行止めによる周辺道路の慢性的な渋滞が解消され、交通流が円滑化されました。
- 歩行者・自転車の安全確保：歩道の整備により歩行者や自転車の安全な通行が可能となり、交通事故リスクが軽減されました。
- 車両通行の円滑化：道路の拡幅整備により、車両の走行環境や走行速度が向上し、交通規制されていた大型車同士の離合も可能になりました。
- 景観の向上：歩道舗装の材質や色調を周辺道路と調和させることで、地域の景観が向上しました。
- 工期短縮：仮橋を設置することなく、当初4年間と見込まれていた工期を、工程の最適化を図ることで、予定より一年以上も早く完成させることができました。これにより地域住民の皆さまにご迷惑をおかけする期間を最小限に抑え、早期開通を実現できました。
- 地域社会との連携強化：地域の小学生に橋名板の筆耕を依頼するなど、地域住民との一体感を高め、愛着のある橋を完成させることができました。

## 5. まとめ

本事業では、交通状況の改善、歩行者・自転車の安全確保、景観の向上など、多岐にわたる成果を上げることができました。特に、仮橋を設置せずに施工が可能となったのは、地域住民の皆様を始め、関係機関の皆様のご理解とご協力のおかげです。

これらの経験を活かし、今後の街路整備に繋げていきたいと考えています。